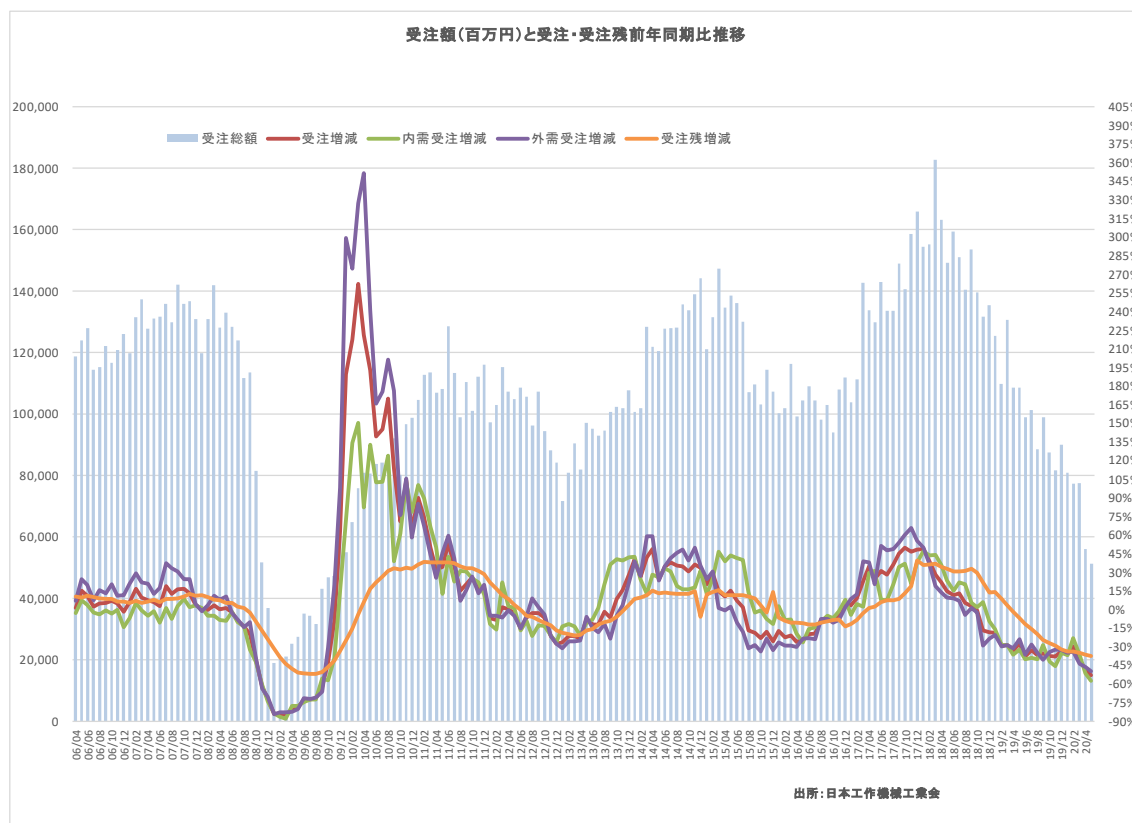


## 工作機械工業会 5月受注確報 5月52.8%減と内外でコロナ影響継続

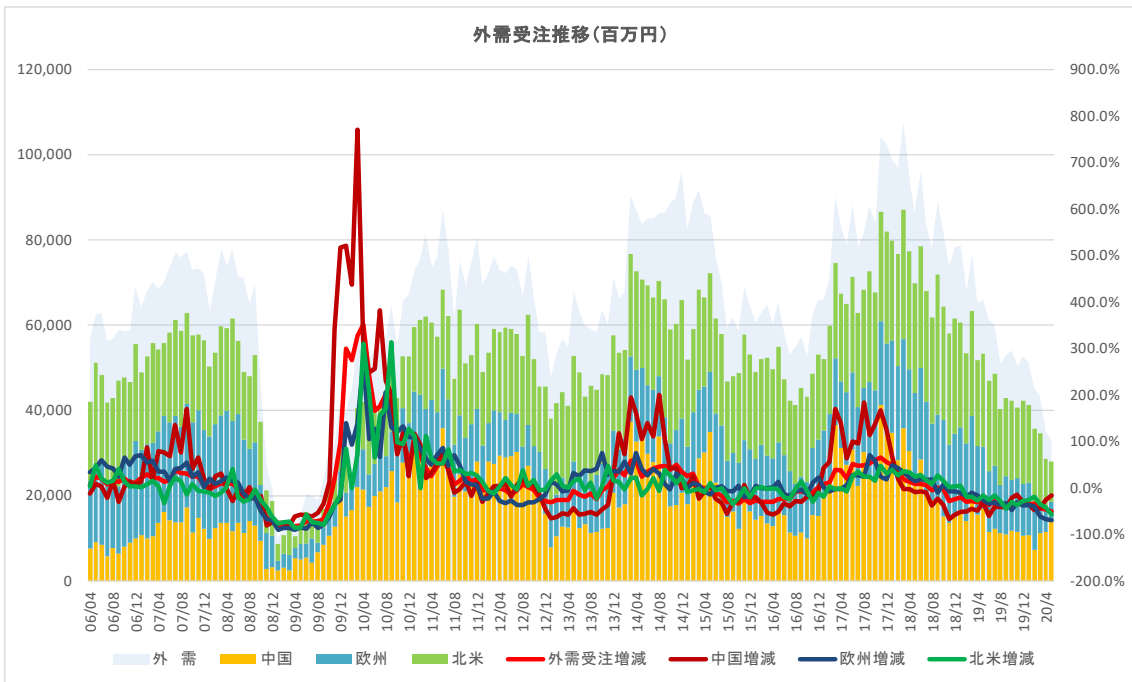
### 5月受注は同月比48.3%減561億円、2010年1月(551億円)以来の600億円割れ

6/23の15時に日本工作機械工業会の5月工作機械受注確報が開示された。5月受注は同月比52.8%減の512億円、2009年11月(473億円)以来、10年6ヶ月ぶり550億円割れ、前年同月比20ヶ月連続減少。国内外でコロナウイルス拡大影響が継続している。

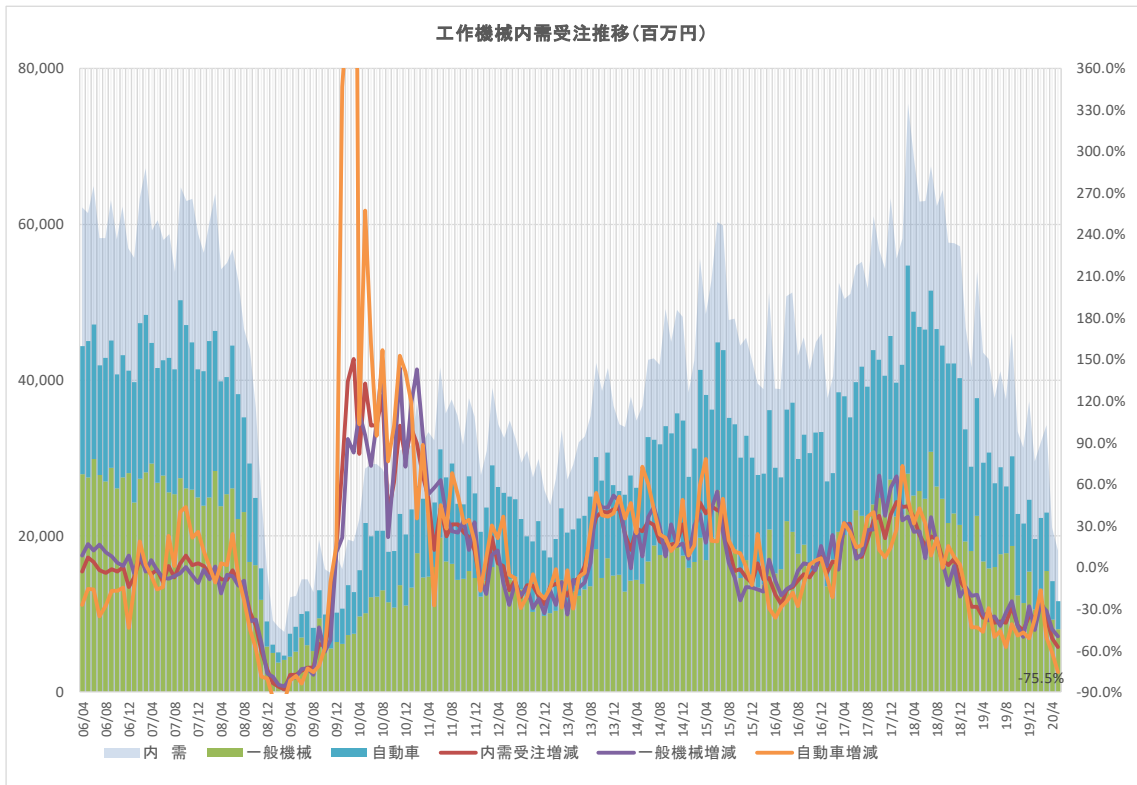


外需は330.5億円(49.8%減)で、20ヶ月連続マイナス、前月比でも5ヶ月連続減。但し、地域別では中国が前年同月比26.0%減と26ヶ月連続減少したものの、前月比では22.3%増の142億円と、1年ぶりの140億円超えに。仕向け先では電機・精密向けが85.8%増と13ヶ月ぶりの50億円、半導体関連の拡大が寄与している。一方、欧州向けは19ヶ月連続同月比減の69.5%減と厳しく、2009年9月以来の50億円割れ。特にドイツ78.9%減、イタリアも46.5%減、イギリス82.5%減とコロナウイルスによるロックアウトが影響している。北米向けは16ヶ月連続前年同月比減の56.8%減。アメリカ向けが56.3%減と、10年3ヶ月ぶりに100億円割れ、これからもコロナ影響が加わる気配。

外需の業種別動向では主要4業種で電気・精密が7.7%増と中国の増加で10ヶ月ぶりの70億円超。一般機械は44.6%減、自動車が65.6%減、航空・造船輸送用機械向けも28.8%減といずれも厳しい。



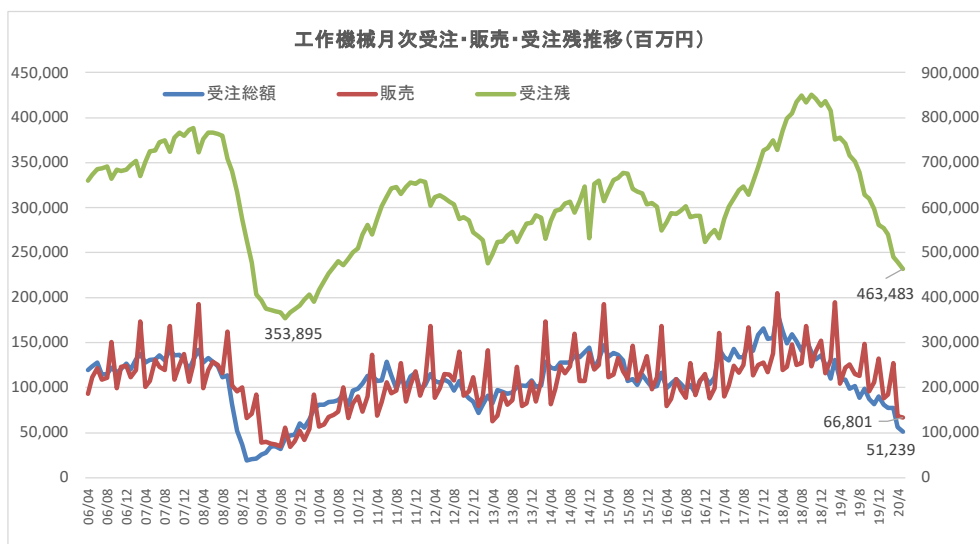
内需は181.9億円(57.4%減)で18ヶ月連続減、10年2ヶ月ぶりの200億円割れ。主要4業種全てで前年同月比減少、全11業種でも同様に全減状況続く。とりわけ厳しいのが自動車向けで、36.5億円、前年同月比75.5%減(17ヶ月連続減)、4月比で25.0%減となり、10年5ヶ月ぶりの40億円割れ、完成車向けも10年5ヶ月ぶりに10億円割れ。



## 受注残高減少から5月販売は668億円（45.1%減）で赤字転落企業も続出見通し

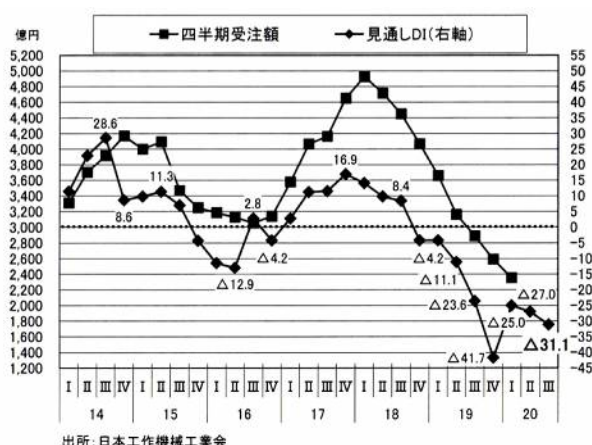
決算発表が遅延していた3月決算企業の決算発表も終了、工作機械業界の厳しい収益環境が確認された。受注減に伴い、受注残高が3月末には危険水域の5000億円を割り込み、

5月末では4635億円（前年同月比37.6%減）にまで減少、5月の販売は前年同期比45.1%減の668億円に止まった。6



月以降も国内外の主力工場の稼働は再開されているが、中国を除き、軒並み低水準の稼働で推移する見通し。

工業会の7月～9月の受注動向アンケート調査（6月上旬実施）では、コロナ感染拡大影響が夏場以降も続くとする結果が多く、厳しい状況が続く見通しとなっている。特に自動車販売が低迷を脱しきれず、最大ユーザーが自動車業界であり、工作機械関連企業について、半導体に関連する工作機械メーカー、中国向けが多いメーカーの一部を除き、上期は軒並み赤字転落が見込まれる。



出所: 日本工作機械工業会

	20年7～9月期 見通し	20年4～6月期 見通し	増減
調査時点	2020年6月初	2020年3月初	
増加	10.8%	8.1%	+2.7Pt
保合	47.3%	56.8%	△9.5Pt
減少	41.9%	35.1%	+6.8Pt
増加ー減少 (DI値)	△31.1	△27.0	△4.1Pt





